

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表  
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満  
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧  
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 宮城県大崎市立鹿島台第二小学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中高一貫教育  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

住所 〒989-4106  
宮城県大崎市鹿島台大迫字寺沢40-1

E-mail : osaki\_kashimadai2@educ.osaki.miyagi.jp

Website : なし

児童生徒数：男子 24 名 女子 16 名 合計 40 名  
児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

## 4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

### 1 活動の概要

#### (1) 環境緑化栽培活動

全校児童が、夏はマリーゴールド、秋からはビオラを種から育て、仮植、定植の一連の栽培活動を、学校行事（勤労生産活動9時間）を軸にして行う。

耕地内で栽培を続けるほか、学校近くの老人介護施設や地区の公共施設（駅、病院、市役所等）にも、育てた花のプランターを提供し持続可能な地域づくりに係わる。

#### (2) 生物多様性（絶滅危惧種飼育）活動

環境省レッドデータブックで絶滅危惧種ⅠAに指定されている鹿島台地域の在来種「シナイモツゴ」の里親学校として、総合的な学習の時間（3～4学年、年間30時間）を使って飼育に取り組む。

地域の飼育グループの協力を得て、卵の孵化から稚魚～成魚に至るまでを1年間かけて飼育し、地域内のため池に放流して繁殖を試みる。

### 2 活動計画

#### (1) 環境緑化栽培活動

##### ① ねらい

ア 花壇栽培活動を実践することにより、草花を大切に育てていく心を育てる。

イ 活動に当たって、協力や奉仕の心を育てる。

##### ② 活動内容

ア マリーゴールドの播種、定植（5月～11月、3時間）

イ ビオラの播種、仮植、定植作業（7月～3月、4時間）

##### ③ 活動形態

ア 基本的には、縦割り班で行う。花壇のデザインは6年生が行う。

イ 作業準備や説明は、環境緑化部と環境委員会が行う。常時の水やりは、環境委員会やみどりの少年団の活動を活用する。

##### ④ その他

ア 校門坂、玄関前のプランターの計画も立てる。

イ 鹿島台大迫サービスセンターへプランターを提供する。

ウ 鹿島台分院、鹿島台駅、鹿島台総合支所へプランターを提供する。

#### (2) 絶滅危惧種飼育活動

##### ① ねらい

ア 生命と係わる自然体験をとおして、自然についての驚きや自然との共生の大切さを感じとらせる。

イ 生活と結びつけながら、科学的なものの見方や問題解決能力を育てる。

##### ② 3～4学年の具体的な活動と身につけたい力

シナイモツゴに興味・関心をもつと共に、育てる活動をとおして身近な環境への関心を高め、それらを守ろうとする気持ちを育てる。

- ・ 鹿島台の伝統文化やシナイモツゴについて、自分なりに課題をもつ。
- ・ いろいろな調べ方がある事を知り、調べる学習を進める。
- ・ 調べて分かったことを説明する。
- ・ 鹿島台の伝統文化やシナイモツゴを守ろうとする活動に積極的に取り組む。

##### ③ 活動内容

- ア 飼育槽への卵の搬入（5月、シナイモツゴ郷の会へ依頼）
- イ シナイモツゴについての勉強会（講師 シナイモツゴ郷の会）
- ウ 常時観察，飼育（5月～4月）
- エ シナイモツゴの放流，飼育槽の清掃（4月）
- オ 活動のまとめ 総合的な学習の時間の発表会にて活動の発表を行う。（2月）

### 3 成果と課題

#### (1) 環境緑化活動において

##### ① 成果

- ・ 自分たちで種から植物を育て花壇一杯に咲き誇る花々の姿を見て，花と緑が豊かな学校であることへの誇りをもつようになった。
- ・ 地域の方々から，「花と緑が豊かな学校」という見方が定着してきた。
- ・ 毎年実体験を行っているので単なる知識ではなく，上学年ならば「種のどちらから根が出て，どちらを下にして植えるか」「どのような時期に，どのくらいの水やりが必要か」など専門的な知識をもつようになり，植物の栽培に高い関心を示すようになった。
- ・ 縦割り班で活動することにより，上学年が下学年の世話をするなど，思いやりの心を育むことができた。
- ・ 放課後の水やりや長期休業中の水やりを自分たちで当番を決めて実施するなど，緑化活動への意欲と責任感が育っている。

##### ② 課題

- ・ 地域の自然を守ろうとする態度が身につくよう，更に活動を工夫していく必要がある。
- ・ 緑化体験活動を通して疑問に思ったことを更に探求する活動や，地域の関係者とのコミュニケーションを深める活動を工夫していきたい。

#### (2) 絶滅危惧種の飼育活動において

##### ① 成果

- ・ 地域の貴重種の存在を知ると共にその飼育活動を通して，その種を守り育てていこうとする気持ちが育っている。
- ・ 侵略的な外来生物の増加による被害や絶滅危惧種の存在を知ると共に，また，従来の自然種を守ろうという自然保護の活動や，保護増殖活動を行っている人々の活動に触れることができた。

##### ② 課題

- ・ シナイモツゴから活動を広げ，自然保護や自然を愛する態度が身につくような活動を，更に工夫していく必要がある。
- ・ 飼育体験活動を通して疑問に思ったことを更に探求する活動や，地域の関係者とのコミュニケーションを深める活動を工夫していきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）